

高齢者福祉

人生80年時代となり、一段と高齢化が進む日本。当町の高齢者人口も年々増加し、総人口に占める割合は21・8%と国・県の数値を大きく上回っています。多くの方が長寿を祝えることは大変喜ばしいことであり、そして誰もが豊かな老後を送りたいと願っています。これに伴い高齢者福祉行政の重要性もますます高まることが言えます。

このような状況の中、高齢者福祉の重点施策として取り組んできた特別養護老人ホーム第二松丘園が、今年4月に開設しました。第二松丘園には、デイサービスセンターと在宅介護支援センターが併設されていることから、在宅福祉サービスの向上にも大きな役割を果たすものと期待しています。

町は第二松丘園建設に対し、新東京国際空港関連の防音対策工事補助や施設周辺の町道整備を平成8年度に行いました。



ボランティアや家族の方を交えての
デイサービスセンターでの昼食風景（第二松丘園）

0-157対策

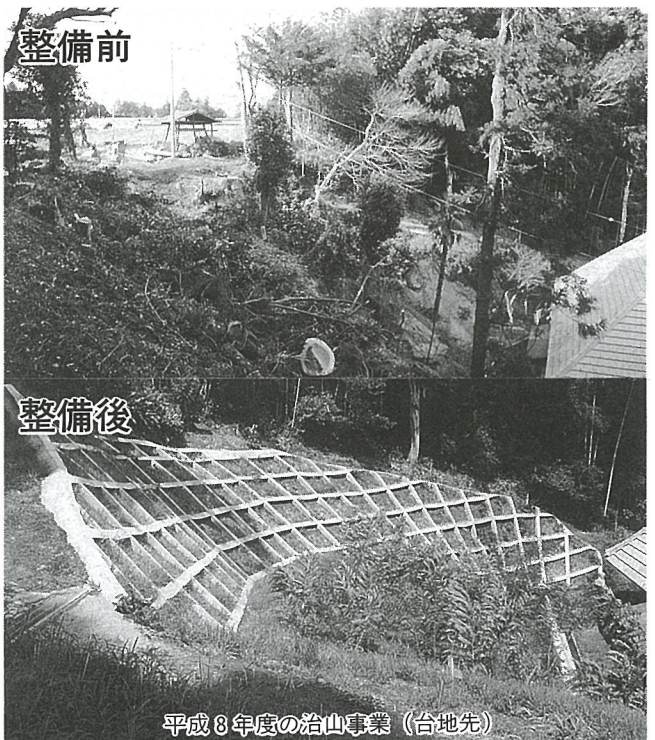
全国規模で多くの感染者を出し、恐れられた病原性大腸菌O-157。町給食センターでは安全な給食を提供するため、平成8年度では316万5千円を支出して、冷凍庫の購入や手洗器改修等の食中毒予防対策を講じました。また、年度当初から計画していた調理場の床改修工事も予定どおり実施したことから、施設の衛生面は大いに向上しました。また、施設整備と併せて、十分な加熱調理や果物の塩素消毒等の衛生管理も厳正に行い、食中毒予防に万全を期しました。



台風17号による被害

昨年の9月に来襲した台風17号は、幸い人的被害はなかったものの、道路の損壊やがけ崩れ等いくつかの被害をもたらしました。

これらの災害復旧に要した経費は4207万円となりました。その内訳は、町道災害復旧事業（南条小通学路他9路線）に2386万円、農業用施設災



平成8年度の治山事業（台地先）

害復旧事業（篠本揚水機場）と治山事業（台地先）に1821万円でした。

公債費の状況

町の借入金元利償還金である公債費は、前年度と比較して3111万5千円増加し、支出全体の11・6%を占めています。増加した理由は、しおさい公園や文化の森公園等の大規模施設を整備するために導入した借入金の元金の償還が開始されたためです。近年、増加傾向にあった公債費も平成10年度をピークに減少に転じる見込みです。

災害の発生等により突発的に

多額の資金調達が必要となった場合や道路整備・学校建設のように、将来の住民にも経費を分担してもらうことがむしろ公平だといえる事業を行うために資金を借り入れますが、前述の減税補てん債のように、交付税への算入があるような、できるだけ有利なものを選択し、後年度に過重な財政負担を強いることのないように配慮しています。

健全財政を続けるために

決算は、今後の財政運営の手引きとなるものですから、これを基に更なる健全性の確保に努めます。